

“軽い時代”だからこそ、 チャレンジ精神と夢の大切さを あえて後輩たちに伝えたい。

オリックス・バファローズ球団本部長補佐
1975年 経済学部卒業

小林 晋哉 さん

選手からスカウトを経て球団フロントへ。その野球人生は、決して順風満帆とは言えない。しかし「自分は幸せ者。大好きな野球に関わり続けられるのだから」と小林晋哉氏は柔和な微笑を浮かべる。そんな小林氏に、学生時代の思い出、野球への熱い思い、後輩たちへのメッセージを語ってもらった。

4年目の秋、念願の 六大学リーグ昇格を実現

小林晋哉氏は高校時代、野球の名門、兵庫・育英高校で甲子園をめざしていた。ポジションはレフト。しかし夢はかなわなかった。「このままで終わりたい。ポジションはレフト。しかし夢はかなわなかった。このままで終わりたい。ポジションはレフト。しかし夢はかなわなかった。このままで終わりたい。」

京都産業大学は、当時の関西六大学野球リーグへの昇格をめざし、戦力強化に力を注いでいた。「何しろその頃の京産大には野球部はもうろん大大学全体に、活気というか「やっつやろっ、がんばろっ」という熱意がみなぎっていたように思います。私もその熱気に後押しされて、野球に全身全霊で打ち込みました。」



Portrait 02

京産大マインドを持ち、活躍している方々にインタビュー。
その言葉から、あなたのめざす世界が見えてくるかもしれません。



そして4年次生の秋、小林氏にとっては最後のチャンスとなる秋、京都産業大学は、京滋リーグで優勝。入替戦を制し、悲願の関西六大学リーグ入りを果たした。

無名チームにあえて飛び込み 日本一の栄冠を獲得

大学卒業後、小林氏は神戸製鋼に入社した。「当時、神戸製鋼は社会人野球では無名に近い存在でした。しかしだからこそ、やりがいがある。このチームで都市対抗野球で優勝してやろう、と心に決めたんです。京産大で六大学リーグ入りを果たした時もそうですが、負けじ魂と言ったのですかね、これが私の野球人生を支えてきたように思います。」

2年後の1976年、神戸製鋼は都市対抗野球で初優勝を果たす。

その原動力の一人であった小林氏は、翌77年のドラフトで4位指名を受け、阪急ブレーブスに入団。ちなみにその年、上田監督の率いる阪急は巨人を破り日本一に輝いている。

難しいからこそ挑戦 困難を克服してこそ明日がある

1987年、10年間の現役生活にピリオドをうち、小林氏はスカウトマンとしての裏方の立場で球団を支えることになった。その後、阪急ブレーブスはオリックス・ブルーウェーブ、さらにオリックス・バファローズへと名を改めた。小林氏はスカウト、コーチを経てフロント入りし、現在は本部長補佐として、多忙な日々を送っている。「球団経営は苦勞の連続です。だからこそやりがいもある。厳しい現状を乗り越えるために、一歩一歩努力を重ねていくつもりです。清原入団という明るい材料を経営にも生かし、また故・仰木監督の志を継いで、強豪オリックス・バファローズ実現のために微力を尽くすこと。これが、野球を愛し野球に育てられた私の使命であり、何よりの喜びなのです。」

オリックス・バファローズ球団本部長補佐
小林 晋哉 氏
プロフィール

1953(昭和28)年生まれ。
1975(昭和50)年、京都産業大学経済学部卒業。
(株)神戸製鋼所に入社。
1977(昭和52)年、阪急ブレーブス入団。スカウト、コーチ等を経て2005年より球団本部長補佐。



◀ 京産大 プチメッセージ

実家(石川県)に帰って、高校時代のバンド仲間とライブしまくります!! (理学部 2年次生 中山 泰志さん)